平成29年度入学生用カリキュラムマップ

【演奏学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP1100	初　期　演　習	1	「初期演習」の目的は、初年次学生が、学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学部・学科の教育目標を達成するように導くことである。	1．「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。 2．主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3．学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4．女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。		○								◎		○
17UMUP2101	2　年　次　演　習	2	音楽人として確実に身に付けておくべき事項を中心に課題を与え、「情報収集、思考、討議、分析、プレゼンテーション」という主体的・能動的学習を経験し、グループワークによる協働力を養う。	上級学年において、より専門的な研究を深め音楽芸術を表現・活用していくため、また将来のさまざまな進路に向けて、論理的思考力、コミュニケーション能力の向上を目指す。	○	○								◎	◎	○
17UMUP1102	英　　語　　A	1	人物、都市、歴史、政治、社会問題、スポーツにいたるまで幅広い関心事を取り扱ったテキストを使用し、英語力を養う。同時にその言語の背景にある文化も学び教養を広げ深めていく。	聴く、話す、書く、読むの四技能の向上を目指していく。 平易ではあるが味わい深い英・米の詩を取り上げ、文学的な好奇心を引き出したい。			◎								○	
17UMUP1103	英　　語　　B	1	人物、都市、歴史、政治に至るまで幅広い関心事を取り扱ったテキストを使用して英語力のアップを目指していく。そして同時にその言語の背景にある文化についても学習し教養を広げて深めていきたい。	聴く、話す、書く、読む、の四技能の向上を目指す。 平易ではあるが味わい深い英・米の詩も取り上げながら、文学的な好奇心も引き出したい。			◎								○	
17UMUP1104	Oral Communication	1	「英文法はある程度わかっていても、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して様々な状況での基本的な実用会話ができるようになることを目標とする。			◎								○	
17UMUP1105	情報リテラシーⅠ	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	・本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 ・基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 ・レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。											○	◎
17UMUP1106	情報リテラシーⅡ	1	MS-Excelを発展的に取り扱うことにより、データ処理の知識と技能を習得する。「情報リテラシーⅠ」では十分に行えなかった、MS-Excel/Wordを連携的に取り扱うことにより、専門教育課程の課題やレポート作成とビジネス現場で適用できるデータ処理の基本的技能を習得する。	専門教育で取り扱う各種データをMS-Excelで処理し、レポート作成や卒業論文に役立つレベルを目標とする。											○	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP1200	主 専 実 技 Ｉ Ａ	1	声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を高めることを科目目的とする。 ヴァイオリン：ヴァイオリンを通して音楽に親しみ、より深く理解し、演奏技術と豊かな表現力の向上を目標とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 チェロ：将来、音楽家（チェリスト）として社会に通ずるよう、日々の研究、練習に励む。単に時間をかけて練習するのではなく、将来の目標を持って、練習、研鑽に励む。 ヴィオラ：ヴィオラ演奏の向上を図る。 サクソフォン：サクソフォンの基礎奏法、音楽的な解釈を学ぶ。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。 声楽は身体全体が楽器となるため、柔軟な体を作り、基礎的な呼吸法、発声法を習得する。 ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。 ヴァイオリン：獲得した知識・技能を自らの演奏に活かす。 フルート：音楽を表現する為の妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ　等）を克服する為の方法を、自ら考え適応力を身に付ける。 クラリネット：クラリネット奏者としての基礎能力を確立する。 チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身に付け、与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。 ヴィオラ：ヴィオラの様々な演奏技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身に付け、与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。 サクソフォン：サクソフォンの基本的な奏法を身につけ、古典的なレパートリーが演奏出来るようになる事を目標とする。				◎			◎			◎		○
17UMUP1201	主 専 実 技 Ｉ Ｂ	1	声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を高めることを科目目的とする。 ヴァイオリン：前期の学習をふまえて、さらに音楽やヴァイオリンへの理解を深める。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 チェロ：将来、音楽家（チェリスト）として社会に通ずるよう、日々の研究、練習に励む。単に時間をかけて練習するのではなく、将来の目標を持って、練習、研鑽に励む。 ヴィオラ：ヴィオラ演奏の向上を図る。 サクソフォン：サクソフォンの奏法、音楽的な解釈を専門的に深く学ぶ。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。 声楽は身体全体が楽器となるため、柔軟な体を作り、基礎的な呼吸法、発声法を習得する。 ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。 ヴァイオリン：獲得した知識・技能を自らの演奏に活かす。 フルート：音楽を表現する為の妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ　等）を克服する為の方法を、自ら考え、適応力を身につける。 クラリネット：前期で学んだ技術をさらに確実な物にしていく。 チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身に付け、与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。 ヴィオラ：ヴィオラの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く学習し、より高度な演奏表現ができるようにする。 サクソフォン：サクソフォンの基本的な奏法を身につけ、前期よりもやや高度なテクニックを要する古典的なレパートリーが演奏出来るようになる事を目標とする。				◎			◎			◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP2202	主専実技ⅡA	2	声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するにふさわしいピアノ演奏能力を高めることを科目目的とする。 ヴァイオリン：ヴァイオリン演奏のために必要な演奏技術、音楽的理解、表現力の向上を目的とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 チェロ：将来、音楽家（チェリスト）として社会に通ずるよう日々の研究、練習を積み重ね、チェロ演奏技術の向上をめざす。単に時間をかけて練習するのではなく、決めた目標に向かって練習、研鑽に励む。 ヴィオラ：ヴィオラ演奏の向上を図る。 サクソフォン：サクソフォンの演奏技術の向上、音楽的な解釈方法を学ぶ。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。 １年次で学んだ呼吸法、発声法のさらなる追求に取り組みながら、レパートリーを広げる。 ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。 ヴァイオリン：ヴァイオリンを通して音楽を広く、深く理解する。 フルート：音楽を表現する為の妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ　等）を克服する為の方法を自ら考え、適応力を身に付ける。 クラリネット：主専実技Ⅰで学んだ内容をさらに確実なものにするとともに、音楽表現の基本を身につける。 チェロ：チェロの更に発展したテクニックを習得し、またチェロのみではなく、他の楽器との合奏を経験し、幅広い音楽性を身につける。与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢は常に維持する。 ヴィオラ：ヴィオラの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く学習し、より高度な演奏表現ができるようにする。 サクソフォン：バロック、ロマン派等の作品を取り上げ、研究を深める。				◎			◎			◎		○
17UMUP2203	主専実技ⅡB	2	声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するにふさわしいピアノ演奏能力を高めることを科目目的とする。 ヴァイオリン：ヴァイオリン演奏のために必要な演奏技術、音楽的理解、表現力の向上を目的とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 チェロ：将来、音楽家（チェリスト）として社会に通ずるよう日々の研究、練習に励みながら、自分の専門以外の科目にも目を向け、チェロ演奏の糧になるよう勉学に励む。 ヴィオラ：ヴィオラ演奏の向上を図る。 サクソフォン：さらなる演奏技術の向上とともに、豊かな音楽性を養う。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。 これまで学んできた呼吸法、発声法のさらなる追及に取り組み、レパートリーを広げる。 ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。 ヴァイオリン：前期の学習を踏まえ、さらに音楽に対する理解を深める。 フルート：音楽を表現する為の妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ　等）を克服する為の方法を自ら考え、適応力を身に付ける。 クラリネット：主専実技ⅡAに引き続き、さらに高度な表現を身につける。 チェロ：前期で習得したチェロ技術を応用し、与えられた課題をさらに高度に演奏することを目標にする。 またチェロのみではなく、他の楽器との合奏を経験し、幅広い音楽性を身につける。 慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢は常に維持する。 ヴィオラ：基礎的な技術を見直し、フォームなどを矯正して、より高度な演奏表現ができるようにする。 サクソフォン：フランス音楽を中心とした作品を取り上げ、研究を深める。				◎			◎			◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP3204	主 専 実 技 Ⅲ A	3	声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するための能力を高めることを科目目的とする。 ヴァイオリン：ヴァイオリンを通して音楽に親しみ、より深く理解し、演奏技術と豊かな表現力の向上を目標とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 チェロ：自身の将来の目標を再確認し、音楽家（チェリスト）として社会に通ずるよう、日々の研究、練習に励む。 単に時間をかけて練習するのではなく、再確認した目標を目指して練習、研鑽に励む。 ヴィオラ：より高度な技術を身に付ける。 サクソフォン：高度な技術を身に付け、表現力の幅を広げる。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。 声楽曲を演奏するために必要な呼吸法、発声法等の歌唱法をさらに充実させる。 ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。 ヴァイオリン：獲得した知識・技能を自らの演奏に活かす。 フルート：音楽を表現する為の妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ　等）を克服する為の方法を自ら考え、適応力を身に付ける。 クラリネット：さらに高度な演奏技術、表現力を身につける。 チェロ：チェロの更に発展したテクニックを習得し、また独奏のみではなく、他の楽器との合奏を経験し、幅広い音楽性を身につける。 与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢は常に維持する。 ヴィオラ：技術面でより高度なテクニックを操れるようにする。 サクソフォン：現代の作品を研究し、更にレパートリーを拡大していく。				◎			◎			◎		○
17UMUP3205	主 専 実 技 Ⅲ B	3	声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するためにふさわしいピアノ演奏能力を獲得することを科目目的とする。 ヴァイオリン：前期の学習をふまえて、さらに音楽やヴァイオリンへの理解を深める。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 チェロ：将来、音楽家（チェリスト）として社会に通ずるよう日々の研究、練習に励みながら、他の選択している科目にも目を向けチェロ演奏の糧になるよう勉学に励む。 ヴィオラ：音楽性を向上させる。 サクソフォン：さまざまな作品を演奏するために必要な能力を高める。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。 これまでに身につけた呼吸法・発声法を駆使しながら、レパートリーを広げていく。下級学年で勉強を重ねた外国歌曲との相違点を踏まえ、試験課題である日本歌曲の演奏法を身につける。 ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。 ヴァイオリン：獲得した知識・技能を自らの演奏に活かす。 フルート：音楽を表現する為の妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ　等）を克服する為の方法を自ら考え、適応力を身に付ける。 クラリネット：楽曲の構成を把握する能力を身につける。 チェロ：前期で習得したテクニックを応用し、与えられた課題をさらに高度に演奏することを目標にする。 また独奏のみではなく、他の楽器との合奏を経験し、幅広い音楽性を身につける。 慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢は常に維持する。 ヴィオラ：演奏技術のみならず、音楽性を伴った意味のある音を出せるようにする。 サクソフォン：現代の作品を研究し、更にレパートリーを拡大していく。				◎			◎			◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP4206	主　専　実　技　Ⅳ	4	声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力を高める。 ピアノ：芸術作品を演奏するために必要な能力を高めることを科目目的とする。 ヴァイオリン：後期の卒業演奏のための技術的・音楽的理解の習得を目的とする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：クラリネットを演奏する上で求められる演奏技術、音楽性や知識を習得すること。またレパートリーの拡充を目的とする。 チェロ：これまでに日々、研究、練習してきた演奏技術の演奏表現の総合的完成をめざす。 ヴィオラ：４年間の学習を完成させる。 サクソフォン：音楽性を磨きレパートリーの拡充を図る。	声楽：演奏するために必要な技術、音楽性、表現力を身につけることを目標とする。 声楽曲を演奏するために必要な発声法、呼吸法等の歌唱法のさらなる向上をめざす。 楽曲の深い理解と解釈を習得する。 レパートリーのさらなる拡大をはかる。 ピアノ：試験課題を演奏するために必要な技術・音楽性・表現力を身につけることを到達目標とする。 ヴァイオリン：音楽家としての資質を高めるため、演奏技術、音楽的理解、表現力のさらなる向上を目指す。 フルート：音楽を表現する為の妨げとなる、フルートという楽器の制約（低音域の音量が乏しい、跳躍した音型のレガート奏法の困難さ　等）を克服する為の方法を自ら考え、適応力を身に付ける。 クラリネット：舞台での演奏を念頭に置き、必要十分な技術、表現力を身につける。 チェロ：チェロの為のソナタ、協奏曲、もしくはそれに準ずる作品を選択し、曲の完成を目標とする。 ヴィオラ：卒業演奏へ向けてこれまでの学習を再検討し、不足している部分を強化するとともに、自らが得意とする技法や表現をより伸ばしていけるようにする。また、プロフェッショナルとして求められる資質についても考えられるようにする。 サクソフォン：卒業演奏での作品を決定する。これまでの学習内容を生かし、更に研究を深める。				◎			◎			◎		○
17UMUP4207	卒　業　演　奏	4	声楽：芸術作品を演奏するに相応しい能力をさらに高め、大学での主専実技の総仕上げとして公開での演奏を行う。 ピアノ：卒業演奏として公開演奏を行う。 ヴァイオリン：充実したヴァイオリン演奏ができるよう、演奏技術・音楽理解度の再確認をする。 フルート：フルートを媒体としての音楽表現力の向上を目指す。 クラリネット：これまでの学習の成果を、卒業演奏として発表する。技術と心を兼ね備えた表現豊かな演奏を望みたい。 チェロ：音楽家（チェリスト）として社会に通ずるよう目指してきた、日々の研究や練習の成果をチェロの名曲の演奏を通して発表する。 ヴィオラ：４年間の学びの集大成を卒業演奏会で発表する。 サクソフォン：４年間の学習の成果を卒業演奏として公開で行う。	声楽：今までの学習を基に、自らが考え、感じながら表現する力を最大限に発揮し、技術力・表現力を兼ね備えたより完成度の高い演奏を目指す。 ピアノ：今までの学習を基に、自ら考え感じながら表現する力を最大限に発揮し、表現力・技術力を兼ね備えた完成度の高い演奏を目指す。 ヴァイオリン：今までの学習の集大成として、質の高い演奏をする。 フルート：今までの学習を基に、学生が自ら音楽的理解をより深め、豊かな表現力とそれに必要な演奏技術の向上を目指し、創意工夫をする。その集大成として卒業演奏で発表する。 クラリネット：舞台での演奏に必要とされる高度な技術、および表現力を身につける。また舞台マナー等にも気を配れるようにする。 チェロ：チェロソナタ、協奏曲、若しくはそれに準ずる作品を選択し、技術的、精神的にも完成した演奏ができることを目標とする。 ヴィオラ：課題曲目を熟考し、演奏技術のみならず、課題曲の背景などにも目を向け、プロフェッショナルとして通用する演奏を目指す。 サクソフォン：これまでの学習内容を生かし、学生生活の集大成として高いレベルの演奏を目指す。				◎			◎			◎		○
17UMUP1208	副専声楽実技ＩＡ	1	声楽を学ぶにあたっての基礎知識を習得させる。専門や、教職に必要な基本的な事柄をふまえて、歌うということを習得させる。また、歌とピアノ伴奏とのアンサンブル感覚を養い、他の楽器にはない「歌詞（言葉）」の重要性を意識させる。	声を用い自分を表現できることを目標とする。				○	◎					○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP1209	副専声楽実技ＩＢ	1	前期に学んだ基礎知識や、呼吸法、発声法、また、専門や、教職に必要な事柄をさらに充実させ、歌うという事を習得させる。	声を用い自分を表現できることを目標とする。				○	◎					○		
17UMUP1210	副専ピアノ実技ＩＡ	1	バッハ等のバロックの作品を中心に、ツェルニー30番の習得も含めて、必要な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	基礎的な技術を習得し、音楽表現に結び付ける。バロック時代の音楽、特にバッハの音楽の様式感を理解し、表現できるよう習得する。				○	◎					○		
17UMUP1211	副専ピアノ実技ＩＢ	1	ハイドン等の古典派の作品を中心に、ツェルニー30番の習得も含めて、必要な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	ハイドンの作品の様式感を理解して表現できるように、テクニックを高める。				○	◎					○		
17UMUP2212	副専声楽実技ⅡＡ	2	１年生で学んだ歌う為の基礎知識をさらに充実させ、専門や教職に必要な事柄を引き続き習得する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎					○		
17UMUP2213	副専声楽実技ⅡＢ	2	前期に学んだ基礎的呼吸法、発声法をもとに発声の追求に取り組む。専門や、教職に必要な基本的な事柄を更に充実させ、歌うということを習得する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎					○		
17UMUP2214	副専ピアノ実技ⅡＡ	2	副専ピアノ実技Ｉに引き続いてより高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な技術を高め、より多彩な曲の表現に役立てる。安定したテクニックで、特にバッハの様式感を踏まえた演奏を目指し、ポリフォニー作品に取り組む。 ピアノ専修の学生は特に初見能力を高める。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎					○		
17UMUP2215	副専ピアノ実技ⅡＢ	2	副専ピアノ実技Ｉに引き続いてより高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な演奏能力を更に高め、古典派の音楽に親しみ、様式感を理解し、音楽的表現を目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎					○		
17UMUP3216	副専声楽実技ⅢＡ	3	２年間学んだ呼吸法、発声法の充実と、音楽内容のさらなる追求に取り組み、専門や、教職に生かせることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎					○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP3217	副専声楽実技ⅢＢ	3	入学以来の学習の成果を十分に発揮することを目指す。これまでの学習の集大成として、技術、音楽性、豊かな人間性を兼ね備えた演奏が出来ることを目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声を用い自分を表現できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎					○		
17UMUP3218	副専ピアノ実技ⅢＡ	3	副専ピアノ実技Ⅱに引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基礎的な技術を安定化させ、より多彩に各曲の表現をする。ロマン派の音楽の様式感を踏まえた表現の演奏を目指す。ピアノ専修の学生は初見能力を更に高め、さまざまな曲に臆せず取り組む。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎					○		
17UMUP3219	副専ピアノ実技ⅢＢ	3	副専ピアノ実技Ⅱに引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	さらに演奏技術を高め、古典派はもとより、ロマン派の音楽も表現できるように自発的な音楽づくりを目指す。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎					○		
17UMUP4220	副専ピアノ実技ⅣＡ	4	副専ピアノ実技Ⅲに引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	基礎的な技術の更なる向上と読譜力および表現力のアップを目指す。				○	◎					○		
17UMUP4221	副専ピアノ実技ⅣＢ	4	副専ピアノ実技Ⅲに引き続いて、より高度な演奏技術および表現力を養うことを目的とする。	これまでに積み上げてきた演奏技術を駆使して、各自で自由に選択した曲を、その曲の持つ様式感にふさわしい演奏ができるように総仕上げする。				○	◎					○		
17UMUP1222	ソルフェージュⅠＡ	1	読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を総合的に把握し表現できる能力を養う。	音楽を表現するために必要なリズム感、フレーズ感を養い、教職等の現場での実践力を養う。	◎				○							
17UMUP1223	ソルフェージュⅠＢ	1	前期にひきつづき、読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を総合的に把握し表現できる能力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	♯、♭一つまでの旋律に適した伴奏を付けることができ、複数の旋律を聴きわけることができるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎				○							
17UMUP2224	ソルフェージュⅡ	2	音楽活動をする為の基本的スタンスを確立する。音楽的基礎能力を各個人の能力に従って順次高めていく。	全ての長調と短調の旋律を、初見で自由に歌える（演奏する）ことを可能とする。	◎				○							
17UMUP1225	和　声　法　Ａ	1	楽典の知識を身につけ、構築の柱の一つである和音の流れ（和声）をベースに楽曲構成、対位的な旋律の構築について作品の考察をする。これにより作曲家の意図を正確につかみ、創造的な表現に活用し得る能力を養成する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	基本形によるバス課題（調号３つまでの調）を四声体にできるようにする。８小節～10小節位の曲。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎				○							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP1226	和　声　法　B	1	西洋音楽の中核をなすバッハ・モーツァルト・ベートーヴェンなどの作曲家によって完成された和声技法の基礎を学び、和音の使い方を通して、作曲家の意図を正確につかみ表現できる能力を養う。	バスの動きをもとに四声体にするが、その際に旋律的に美しいソプラノ作成を目指す。	◎				○							
17UMUP2227	指　揮　法　I	2	音楽性豊かな表現をするための基本的な指揮法の習得を目標とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身に付ける。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎			○			○	
17UMUP2228	指　揮　法　II	2	さらに多彩な表現をするための応用的な指揮法の習得を目標とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身に付ける。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎			○			○	
17UMUP4229	作家作品研究 I	4	西洋の音楽作品にみられる音楽そのものの背景を、その歴史的意義と文化史的意味を視野にいれながら、演奏解釈にも有用な分析の在り方を習得することを目標とする。	音楽作品の創作過程とその文化的背景を知ることで、自ら音楽表現に資することを目標とする。		◎			○							
17UMUP4230	作家作品研究 II	4	西洋音楽の作品が生み出される背景と音楽作品自体に内在している音楽的出来事を分析的に考察する。その考察に基づいて実際の演奏表現に資する問題について講義する。	幅広い音楽作品へのアプローチの方法を、実際の演奏に反映できるようにすることを目標とする。		◎			○							
17UMUP2231	即　興　演　奏　A	2	「即興演奏」の手法を学び、その基礎力を身につける。	科目習得時には、伴奏譜がなくても、メロディーとコードネーム付き一段譜を見て、変奏も含めた簡単な即興演奏ができる事を目標とする。					◎							
17UMUP2232	即　興　演　奏　B	2	即興演奏Aで学んだ即興とはまた違った即興演奏を学習し、基礎力をさらに向上させる。 簡単なメロディーを即興的に作成し、ピアノで即興演奏できる事を目指し、将来、教員や音楽教室講師などの職業に大いに役立つ力を身につける。	科目習得時には、メロディーのモチーフを発展させ、即興的に簡単な曲が作成できる事を目標とする。					◎							
17UMUP4233	作・編　曲　法　A	4	主に歌曲の創作を通して、作曲のプロセスを学ぶことにより基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽はどのようなものかを把握し、演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	◎			○							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP4234	作・編曲法B	4	器楽作品を主な題材に、作品の作られた時代背景にも考慮しながら作品分析を行い、音符や記号、楽語などの情報表現を含む基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽はどのようなものかを把握し、演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。	◎	◎			○							
17UMUP2235	旋律と和声A	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲に於ける和声の仕組みを読み取り考察する能力とを身に付ける。	◎				○							
17UMUP2236	旋律と和声B	2	多種の和音、およびそれが作品の中で使われる際の多様な意味を、時代背景や地域性をも考慮しながら研究し、作品を深く理解する能力を養う。	和声課題の実践能力と、楽曲に於ける和声の仕組みを読み取り考察する能力とを身に付ける。	◎				○							
17UMUP2237	教育伴奏法	2	中学、高等学校の授業で取り上げられるような教材を用い、各曲の指導のねらいとポイントにそった音楽づくりができるような伴奏および弾き語りをする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ピアノ専修：伴奏を通して音楽全体を把握し、より良い音楽表現を目指して弾き語りをすることを目標とする。 声楽・管弦専修：伴奏を通して音楽全体を把握し、曲にふさわしい音楽表現を目指して弾き語りをすることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎				◎			○
17UMUP3238	楽曲研究A	3	楽譜から音楽を読みとる力、すなわち読譜力を高める。そして、音楽への理解力と構成力の感性を、創造的に深めていく。	小品の楽曲を分析し、独自の演奏解釈が可能となる。その為の音楽的基礎知識をマスターする。	◎	◎			○							
17UMUP3239	楽曲研究B	3	読譜力を高める。楽譜の流れから作曲家の心の中での楽想のふくらんでいく過程を読みとっていく。	授業内に取り上げた楽曲（特にソナタ形式）を充分に理解し、それ以外の楽曲に応用する分析力をつける。	◎	◎			○							
17UMUP3240	電子楽器	3	卒業後、教員、音楽教室講師など音楽の職業についた時に役立つ力を身につけ、クラシック以外の様々なジャンルの音楽についての知識も深め、あらゆるジャンルの曲にも取り組み、様々な対応力を身につける。	科目習得時には、各自志向の曲が何曲か仕上がり、即興演奏の手法も身に付ける事を目標とする。					◎					○		
17UMUP1241	音楽史I	1	人類が多様な音の世界を秩序付け、音楽を生成し洗練して行った歴史を、古代から中世にかけての音楽的出来事を、わが国と西洋の状況を常に比較しながら概観することによって、ダイナミックな音楽的理解を可能にすることを目標とする。特に、わが国の音楽の歴史的流れを克明に知ることによって、西洋音楽のみではなくわが国の音楽文化の再認識につながることに主眼を置く。	西洋と我が国の歴史的な音楽文化を体系的に理解認識できることを目標とする。		◎			○							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP2242	音　楽　史　Ⅱ	2	「音楽史Ⅰ」を受け、14世紀から現代までの音楽の流れを我国の音楽と比較して認識する。更に現代音楽や民族音楽の領域にも視点を拡げ、多様な音楽の存在を認識する。我国の伝統邦楽や芸能がもつ固有の音楽性を鑑賞しうる能力の醸成を目標とし、現代社会を彩るポピュラー音楽の受容の在り方をも射程に入れ、現代の音楽の教育的側面にも留意した幅広い音楽観の醸成を目標とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	我が国と西洋の音楽文化を具体的な音楽作品の鑑賞とともに体系的に把握できることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。		◎			○								
17UMUP1243	合　唱　Ⅰ	1	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。					◎	◎						
17UMUP2244	合　唱　Ⅱ	2	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌うこと。また、社会で協調できる能力の育成を目標にする。					◎	◎						
17UMUP3245	合　唱　Ⅲ	3	声の重なりが作る奇跡に耳を傾け、合唱の魅力を味わうとともに、全員で一つの音楽をつくる喜びを感じ、表現したいイメージをふくらませ豊かにする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うことを通して社会で協調できる能力の育成を目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	◎						
17UMUP1246	学　内　演　奏　Ⅰ	1	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	演奏やレクチャーを受講し、客観的に音楽をとらえていくことを学ぶ。					○			◎				
17UMUP2247	学　内　演　奏　Ⅱ	2	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	鑑賞をすることで、演奏者の音楽に対する取り組みを学び、演奏者としてそのことを活かせることを目標とする。					○			◎				
17UMUP3248	学　内　演　奏　Ⅲ	3	「演奏者」と「鑑賞者」の両方の視点を養わなければ、音楽を真に理解し、探求することは不可能である。この科目は「演奏」と、その「鑑賞」を通して、音楽とは何か、演奏とはどういうことなのかを体感することを目指す。	・多様な演奏を聞き、講義を受講することにより、音楽に対する感性を養い、知識の幅を広げる。 ・演奏者および鑑賞者としてのマナーを習得する。					○			◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP3249	器　楽　合　奏	3	教育現場における多様性に学生が自ら考え、創意工夫をし、対応できる力を身に付ける事を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	アルトリコーダーの基本的な奏法を習得し、合奏を通して、アンサンブルの中における個の表現力とアンサンブル全体の表現力にイメージを及ぼす事により、協調性を育み、自らの演奏の問題を発見し、それを克服する術を自ら考える。 教育現場における邦楽への関心の高まりを受けて、篠笛の奏法も学習する。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	◎						
17UMUP3250	邦　　楽	3	学校教育において「和楽器の履修」が義務となっている現状では、その指導者の育成は急務である。その必要性は学校だけにとどまらず、一般社会においても望まれている。本講座では、邦楽を邦楽器（箏）の演奏と歌唱の両面から学び、基礎知識および演奏法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	箏の基礎知識を理解出来るようになることはもちろんであるが、箏の奏法を習得し、演奏出来るようになることを最も重要と考え、到達目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○	◎							
17UMUP2251	副　科　器　楽　A	2	自らの専門以外の楽器の奏法の習得を目的とし、広く器楽教育の視野を持てるようにする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ヴァイオリン：ヴァイオリンに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。 ヴィオラ：ヴィオラに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。 チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身に付け、与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。そして前期の実技試験に於いて、簡単な小品を楽しく演奏できるようにする。 フルート：フルートに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。 自分の専門実技以外の楽器の習得を目指す事により、それを伝える方法を自ら考える。 クラリネット：クラリネットに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。 サクソフォン：サクソフォンに関する基本的な知識、および基礎的な奏法を習得する。 クラシックギター：ギターの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身に付け、与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。そして前期の実技試験に於いて簡単な小品を楽しく演奏できるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP2252	副　科　器　楽　B	2	自らの専門以外の楽器の奏法の習得を目的とし、広く器楽教育の視野を持てるようにする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ヴァイオリン：ヴァイオリンの基礎的な奏法を確かなものにし、更に表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。 ヴィオラ：ヴィオラの基礎的な奏法を確かなものにし、更に表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。 チェロ：チェロの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身に付け、与えられた課題を慎重に且つ真面目に自発的に取り組む姿勢を養う。そして後期の実技試験に於いて簡単な小品を更に表情豊かに楽しく演奏できるようにする。 フルート：フルートの基礎的な奏法を確かなものにし、更に表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。自分の専門実技以外の楽器の習得を目指す事により、それを伝える方法を、自ら考える。 クラリネット：クラリネットの基礎的な奏法を確かなものにし、更に表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。 サクソフォン：サクソフォンの基礎的な奏法を確かなものにし、更に表情豊かに楽曲の演奏ができるようにする。 クラシックギター：ギターの様々な基礎技術や楽器の構造、歴史などを幅広く身に付け、後期の実技試験で簡単な小品を更に表情豊かに楽しく演奏できるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					◎	○						
17UMUP1253	イタリア語表現演習	1	音楽学習者に必修のイタリア語の初歩文法と発音を徹底する。	1．同じ５つの母音を持つ日本語とイタリア語の音の違いを理解し、発音練習を繰り返すことにより、歌唱に役立てる。 2．イタリア語の初歩文法を理解する。 3．簡単な会話を習得する。			◎									
17UMUP2254	声楽演奏研究ⅠA	2	個人レッスンで学んでいる呼吸法、発声法をもとに、さらに楽譜を深く読み取る力を身に付け、より良い演奏をめざす。	主にイタリア語の歌曲・アリアの基礎的な演奏法・読譜法・ディクションを習得し演奏できるようになること。				◎								○
17UMUP2255	声楽演奏研究ⅠB	2	音楽（フレージング・アーティキュレーション等）と文学（原詩の意味内容・リズム等）の関連を考察し、色彩豊かで立体的なドイツ歌曲の演奏法（歌唱法）を習得する。	声楽専修生、器楽専修生の双方にとって重要なレパートリーであるドイツ音楽を演奏する上で必要な技術、感性、思想等が身につくことを目標とする。				◎								○
17UMUP3256	声楽演奏研究ⅡA	3	声楽作品の中でも触れる機会の少ないフランス歌曲を、時代背景や文化と共に学びつつ、歌唱のためのフランス語の発音法を学び、演奏できる技術を習得していく。	ベルリオーズによって名付けられた「メロディー・フランセーズ」（フランス歌曲）の最盛期の主な作品を各自が演奏できるように実習する。				◎								○
17UMUP3257	声楽演奏研究ⅡB	3	歌唱の中でいかに自然な日本語として発語するか、日本語の言葉の一つ一つを生きた言葉として歌唱するにはどうすればよいか、ということを様々な曲の実習を通して考え、歌唱することができるようにする。	1．楽譜通りに曲を再現する。 2．日本語としての発語を徹底させる。 3．詩と旋律、ピアノ部分との関わりから、その曲をどのように表現したいかを考えて歌唱できるようにする。				◎								○
17UMUP4258	声楽演奏研究ⅢA	4	バロックからロマン派までの音楽史上に重要な位置を占めるオラトリオを多く学習することを目標とする。	西洋音楽の重要な位置を占めるオラトリオの勉強をすることで、言葉と音楽で物語を表現すること。 豊かな自己表現ができることを目標とする。				◎								○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP4259	声楽演奏研究ⅢB	4	声楽と器楽のアンサンブルの音楽的特色を学び、その学習を通じて、弦楽器や管楽器の音色、技術的な特色を学び声楽を含む室内楽を作り、演奏出来るレベルに仕上げる。	弦の伴奏に対応でき、内容を伝えることができる歌唱。 協調性と豊かな自己表現が出来る事を目標とする。				◎								○
17UMUP3260	演技演習	3	様々な芸術分野が複雑にかつ有機的に関連するオペラを、音楽と演劇両面からの理解を深める為、まず演じる基礎となる種々な演習を実践することを目的とする。	オペラの台本から読み取れる感情や背景等に関する知識の理解。 共同作業によるコミュニケーション、チームワークやリーダーシップ、責任感。 肉体を動かすことによる心身の解放。 これらを総合的に活用し、自然な動きや自由な自分らしい発想による役作りが出来ることを目標とする。						◎						
17UMUP4261	オペラ	4	一本のオペラを通して演奏し、演技も付けることにより、より確実な呼吸法と発声法と表現法を体験する。 演じる楽しさと歓びを体験する。 集団で創り上げる喜びと達成感を体験する。	オペラの演奏と演技をすることにより、客観的に自分自身を理解するようになること。 クラス授業で沢山の同級生とひとつの作品を公演にもっていく過程において、相手を理解し、共同して作りあげる喜びを体験すること。				○		◎	○					
17UMUP4262	合唱指導法	4	多種多様な要求に応えることができる専門の知識と、柔軟で魅力的な指導力を身につけることを目標とする。	指導することで、多岐にわたる問題を解決する能力を養い、社会に出たとき柔軟に対応できる能力を養うことを目標にする。					◎			◎	◎			○
17UMUP2263	協奏曲Ⅰ	2	ピアノとオーケストラの合奏形態の中で、管弦楽器の様々な音色や特性を念頭におき、ソリストとして音楽的で完成度の高い演奏とは何かを追求していく。	相互の楽器の特徴を発揮しながら調和するように作られた作品（ピアノという独奏楽器と管弦楽との合奏）に、どのように取り組み、表現するかを学ぶ。				◎		◎	○					
17UMUP3264	協奏曲Ⅱ	3	ピアノとオーケストラの合奏形態の中で、管弦楽器の様々な音色や特性を念頭におき、ソリストとして音楽的で完成度の高い演奏とは何かを追求していく。「協奏曲Ⅰ」よりも更に内容の高いものが要求される。	「協奏曲Ⅰ」と同様、相互の楽器の特徴を発揮しながら調和するように作られた作品（ピアノという独奏楽器と管弦楽との合奏）に、どのように取り組み、表現するかを学ぶ。また「協奏曲Ⅰ」で習得した合奏方法を、さらに音楽的な演奏に高めるために学習し習得していく。				◎		◎	○					
17UMUP4265	伴奏法	4	音楽表現の中で、パートナーと五分五分の関係にある伴奏の重要性を理解し、伴奏に求められている柔軟で確実なテクニックや多彩で豊かな音楽性について考察し、質の高い演奏技能を習得する。その上で、一人では完成できない曲を共に作り上げていく喜びを感じ、更に多彩で深い表現を求めて自主的に探究していく力を養うことを目的とする。	パートナーと共に音楽を表現することに喜びを感じるために、安定した信頼できるテクニックを習得すること。また、ともに音楽を作り上げていくパートナーの息遣いを感じ、そのフレーズに相応しい表現のために柔軟な対応ができる力を養うことを目標とする。						◎	○					○	○
17UMUP4266	ピアノアンサンブル	4	ピアノという楽器に習熟し、パートナーとのふれあいを通じてアンサンブルとしての調和を学び、共に生きた音楽を作りあげるよろこびを体得する。	出来るだけ多くの楽曲に接し、前期・後期の最終授業では演奏ホールで仕上げの演奏を発表する。						◎		○			◎	○
17UMUP4267	ピアノ指導法	4	教えることを通して、改めて自分のピアノ、音楽に向かう姿勢など見つめ直す機会とする。	演奏をクリティカルな聴き方をするだけでなく、その楽曲について作曲家の意図を考えたり、どうすればそれが聴き手に伝わる演奏となるのか、具体的に考える。 生徒が楽曲について興味を持つようなレッスンについて考える。 基礎的な読譜力を高める。					◎			◎	◎			○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1．知識・理解			2．技能・表現			3．思考・判断			4．態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
17UMUP3268	チェンバロ	3	チェンバロ奏法の習得とバロック時代の音楽習慣の理解をめざす。	バロックの作品を演奏するときに戸惑いがちな装飾法やアーティキュレーションといったバロック独特の演奏習慣を理解するために、チェンバロの奏法を学ぶ。 また、バロックから初期古典派時代に存在した独特な音楽的演奏習慣や演奏語法の知識を深めることにより、古典派さらにロマン派音楽への変遷を理解することをめざす。		◎		○								
17UMUP3269	重奏演習	3	ピアノを含む室内楽曲において、他楽器とのアンサンブルの楽しさや難しさを知り、合わせるテクニックを身につける。	他楽器との関係が対等であることを理解し、時に伴奏、時に主導権を握って音楽を進めていく双方の弾き分けを身につける。						◎		○			○	○
17UMUP4270	合奏指導法	4	合唱、オーケストラ、吹奏楽など音楽家同士のコミュニケーションが必要とされる現場で、指導者としてどのようにアプローチしていくかを考察する。楽器、声楽の知識、また演奏技術や作品の熟知など様々な面の研究が必要とされる。また、合奏（音づくり）指導や練習方法などを学ぶ。	合奏指導法では、指導者の目線で音楽を捉えつつ、また相手に「どのように伝えるのか」をテーマに研究していく。					◎			◎	◎		○	○
17UMUP1271	合奏Ⅰ	1	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器と共に演奏する楽しさを体感する。	基本的な合奏の技術を身につける。						◎		○		○		
17UMUP2272	合奏Ⅱ	2	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器と共に演奏する楽しさを体感する。	より高度なアンサンブル能力を身につける。						◎		○		○		
17UMUP3273	合奏Ⅲ	3	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器と共に演奏する楽しさを体感する。	自分の声部だけでなく、音楽全体を把握できる能力を身につける。						◎		○		○		
17UMUP4274	合奏Ⅳ	4	様々なスタイルの管弦楽曲の演奏を通じ、管弦楽器の奏者に要求される合奏に関する基礎技術および知識を習得する。また、異なる楽器と共に演奏する楽しさを体感する。	さらに高度なアンサンブル能力を身につける。また舞台マナー等にも気を配れるようにする。						◎		○		○		